



Title	文革期の漫画に描かれた劉少奇
Author(s)	南雲, 大悟
Citation	連環画研究, 7, 17-32
Issue Date	2018-03-10
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98459
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98459
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_7_17-32.pdf



文革期の漫画に描かれた劉少奇

南雲 大悟

はじめに

文化大革命期（1966-1976、以下、文革期）に「漫画」は「賛美と諷刺」双方の用途から、政治宣伝の道具として大いに中国国内で活用された。紅衛兵¹など造反組織の手による作品がこの時期に量産されたこともあり、のちの中国漫画研究においては特に「造反漫画²」と称することも多い。

これらの漫画は2000年代に至るまで、長らく研究対象として取り上げられることは寡少であった。それは一つに当時の漫画資料が散逸し、入手困難であった点に加え、この時期が「（漫画に）重大な災害をもたらした³」、「中国政治漫画の空白期⁴」・「正常な漫画創作は中止された⁵」、「畸変期（ゆがんだ時期・ひずんだ時代）⁶」、「嚴重災難時期⁷」、「文革災難時期⁸」と評されるように、文革期にそれまで活躍していた漫画家が一斉に批判対象となったことも中国国内では扱うことが難しくなった要因となっている。

ところが近年、文革期に創作された漫画について取り上げる書籍や論文が徐々に増え始めてきた⁹。

その中で特に「漫画における個人表象」を扱った興味深い研究が賀旻旻（2013）「図像政治——1966-1969年美術作品中の劉少奇イメージ」（原題『図像政治——1966-1969年美術作品中の劉少奇形象』中国芸術研究院碩士論文、2013年5月）である¹⁰。文革初期における攻撃対象・劉少奇¹¹が描かれた漫画を中心に扱い、第3章第1節「大衆的漫画の中の劉少奇イメージ」第4項「“千夫指（衆人攻撃の的）”としての劉少奇」では、「文化大革命期の書籍、新聞など発行されたもののいずれを適当にめくっても容易に見つけられる¹²」と評する「人民に糾弾を受ける場面」にテーマを絞って考察しようと試みている。ただ、そこでは「劉少奇を攻撃する人民側（善玉）」への言及が大半を占め、「敵役・劉少奇（悪玉）」の漫画表現に触れることは少なく¹³、「劉少奇描写」を象^{かたど}る重要な部分を取りこぼしている感は否めない。

本稿では劉少奇（悪玉）が描かれた諷刺漫画のうち、賀氏が主に取り扱った「人民（善玉）が主役として大きく、力強く表現される」漫画（以下、「善玉中心或いは善玉中心漫画」と呼ぶ）の中での「劉少奇」に注目し、同時に「劉少奇」を主役に諷刺が成立している漫画（以下、「悪玉中心、或いは悪玉中心漫画」と呼ぶ）

をそれぞれ比較し、文革期における「悪玉」表象の一端を考察してみたい。

文革期の漫画「造反漫画」とその周辺

既述の通り、中国漫画史研究において、文革期に創作された漫画を「造反漫画」と称することが多い。当時、「造反」とは「革命」の同義として用いる肯定的な意味で捉えられ¹⁴、作画に携わる者は「造反」を錦の御旗に掲げ、政治目的の宣伝工作に奉仕すべく創作に励んでいた。

文革期における芸術・文学芸術ジャンルの公的出版物のタイトルに「漫画」と確認できる書籍は寡少であり¹⁵、この時期の漫画作品の多くは紅衛兵及び労働者や農民、兵士による美術新聞や壁新聞などを中心に発表されていた¹⁶。また、中国共産党機関紙『人民日報』などにも当時の漫画の隆盛を伝える記事が確認でき、各地における漫画での宣伝普及の様子がうかがえる¹⁷。

実際に創作に携わった周継能（当時、広州第17中学紅衛兵）は自身の漫画創作の契機を振り返り、以下のように述べる。

私に美術の素養は少しもなく、学んだことはない。だが当時は運動だ、つまり「全員参加」だった。それで私にも、こうした制作の機会が与えられた。自分で制作し、自分で表現する機会だ。¹⁸

当時の漫画創作は全員参加型の宣伝活動であり、彼のような素人学生が大量に動員されていた。

また、当時、美術大学の学生であった李醒韜（現在、画家）は、文革期特有の創作環境について次のように証言する。

我々の教師や多くの有名な画家が、みんな打倒されてしまった。しかも当時は、多くの教師が命の危険にさえ晒されていた。多くの教師が収容所に連れて行かれ、監禁された。絵を描く人も、その多くは筆を取ることもさえできなかった。我々学生だけが、絵を描ける状況にあった。それでも出身階級が悪ければ制限を受ける。私は出身が良かったのだ。¹⁹

油絵をやるようなやつはソ連修正主義の腐れ者とされた。中国画は「黒い絵画」だから、ほとんど描けなかった。政治プロパガンダだけしか描けなかった。でも絵筆を持たせてもらえてるだけでうれしかった。絵を描かせてもらえるんだ、素晴らしいじゃないか。みんなすごく羨ましがっていた。²⁰

1966 年からの 10 年間、中国の教育制度は全面的に崩壊し、学校の幹部は「反動分子、反革命修正主義者」とされ、教職員は「反動的學術權威主義者」として批判を受けた挙句、多くの教育機関は学生募集停止や授業停止の憂き目に遭う²¹。そんな状況下、美術を学ぶ目的で進学した李氏も「政治的需要に適う創作」という制約を甘受し、自身のモチベーションを上げて、学業と引き換えに、その表現活動に邁進した。

彼らのような若者がそれぞれの立場で、また複雑な想いを抱きつつ、時宜の宣伝活動に組み込まれていき、当時の漫画は支えられていたのである。

党内最大の「走資派」・劉少奇

1959 年、毛沢東が大躍進政策²²失敗により政治の第一線を退いてのち、国家主席に就いた劉少奇や党総書記・鄧小平²³らは労働者や農民の生産意欲をどうにか回復させ、国難的経済危機を乗り切ろうと、「三包一獎²⁴」（1961 年）や「三自一包²⁵」（1961 年）などの労働の成果に応じてさらなる利益が配分される政策を推し進めた。しかし、それらの政策は再び政治的浮上を目論む毛沢東主導下での文化大革命では「資本主義の道を歩むもの」と批判され、劉や鄧はともに「走資派（＝資本主義の道を歩む実権派）」を代表する人物として批判された。

中国共産党、政府、軍隊と各種文化界に潜り込む資産階級的代表人物は反革命的修正主義分子一派であり、時期が熟すや、彼らは政権を奪取し、プロレタリア独裁政治からブルジョア独裁政治へと変えるだろう。²⁶

上記は『工農兵増刊履歴表彙編』の巻頭言である。当該書は「敵」である資産階級的人物計 10 名²⁷を批判対象として、彼らの「履歴書を掲載する」という体裁で、当時の批判事由を大まかに挙げているが、その人物紹介の筆頭にくるのが劉少奇である【図 1】。履歴紹介の枠上部には当時の劉に貼られた「中国一の走資派」、「中国のフルシチョフ²⁸」というレッテルが書き添えられ、本名や家族構成、略歴などに続き、主な罪状である「毛沢東批判」や「資本主義への傾倒」に関する一連が時系列に列挙されており、漫画の題材にも事欠かないことがわかる。また、同じく走資

中国头号走資派，中国的赫魯曉夫			
刘 少 奇 履 历 表			
姓 名	刘少奇（注：中国少有，世界出奇之谓也）。		
原 名	刘 作 黄	外 号	中国的赫鲁晓夫、黑司令
性 别	男	党 派	假共产党员
籍 贯	湖南宁乡花明楼		
家庭出身	地主（一说为破落地主，一说为富农）		
主要 其 政 治 状 况	祖父 刘××——地主，有土地120亩 父 刘××——（破落地主） 母 刘×氏——出身不明，只知道很富裕 大哥（即阿哥）刘德钦——恶霸地主分子，当过北洋军阀的连（营？）长 二哥（即二哥）刘××——富农分子 大姐 ×刘氏——地主分子 七姐 ×刘氏——地主分子		
婚 否	先后正式结婚六次		

【図 1】

『工農兵増刊履歴表彙編』1967 年 9 月、p. 1

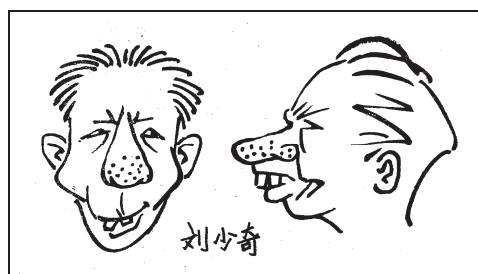
派の中心人物であった鄧小平に関しても当該書の「二番手」で紹介されており、当時の諷刺漫画には劉・鄧両氏で「共演」することもよくあった。

「造反漫画」の中の劉少奇

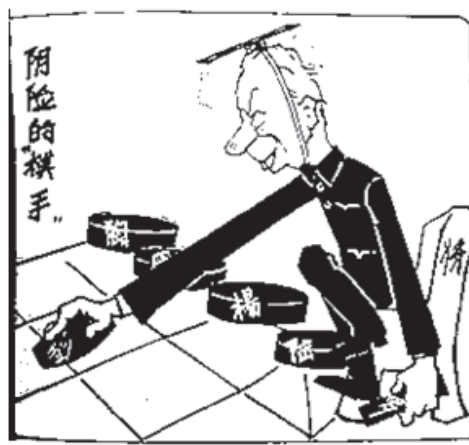
実際に当時の諷刺漫画でどのような描写がなされていたのか。「走資派」の筆頭として批判の矛先に立つ劉少奇は画中の主役になることが多い。漫画内における彼の描写は特徴が「探しやすく²⁹」、代表的なものには「突き出た前歯」、「まばらな毛髪」、「象徴的な大きな鼻」、「突き出た頬骨」、「あばた面」などが挙げられる³⁰。このほか「あばたの鼻・赤鼻」、「曲がった口」、「陰険な目つき」など中国における悪玉描写のコード³¹をたっぷりキャラクターに盛り込み、悪玉らしさを演出する。これらの特徴は、宣伝普及のための創作補助資料「漫画参考資料」【図 2】にも確認でき、当時における標準的な「諷刺漫画中の劉少奇描写」を示すものとする。

このような外見上のデフォルメに、当時の批判内容に即した諷刺を加えて、「悪玉・劉少奇」像が成立していく。

【図 3】「陰険な“棋士”」（原題：陰險的“棋手”）」は国家主席にまで登り詰めた劉少奇が嬉々として玉座に腰掛け、「走資派」メンバーを駒に見立て、対局の口火を切る場面である。中国語原題にある「棋手」は中国将棋のプレイヤーを指す「棋士」の意味であると同時に、「物事を中心になって進める人物」という意味もある。盤面はまだ対局が始まったばかりで、皇帝の冕冠^{べんかん}を冠した敵将・劉少奇は悪事の戦略をイメージしつつ、今まさにそれを進めようとしている。最初の一手となる「彭」のコマは「彭徳懷（1898-1974）」を指すものである。彭は毛沢東の腹心で國務院副総理兼国防部長を務めていたが、毛沢東の大躍進政策を先頭にたって批判した人物とも言われる。また、日本の将棋同様、中国将棋も駒はそれぞれ「将校」、「騎馬」、「戦車」、「兵士」などを表す。画中の劉少奇が両手に持つコマ「彭（彭徳懷）」と「羅（羅瑞卿 1906-1978：中国人民解放軍総参



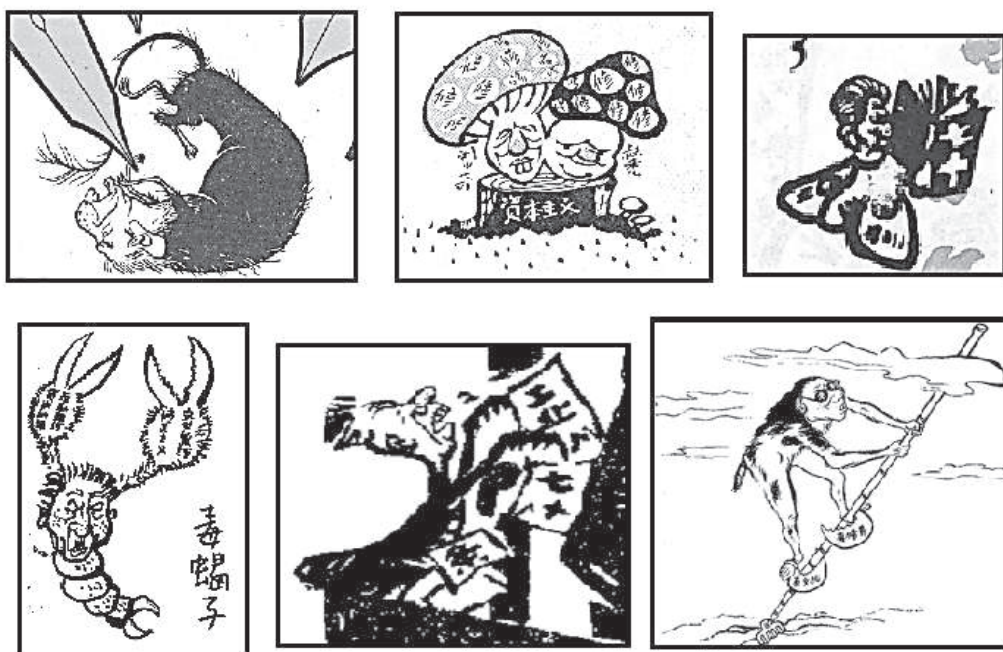
【図 2】
革命大批判漫画参考資料『紅衛兵』大批判刊頭漫画專輯 7、1967 年、第 2 面



【図 3】「陰険な“棋士”」
『打倒劉少奇批臭黑“修養”』上海市半工半讀印刷學校毛沢東思想紅衛兵風雷宣傳組、1967 年 5 月、4 コマ目

謀長など歴任)」はいずれも「党内最大の走資派の軍における代理人³²」であり、「将校」の駒とも重なる。

また、漫画で人物の醜さを追求するには、顔のパーツのデフォルメやよこしまな心を反映する表情以外に、人間ではない「バケモノ」として描くことも多く見られる。このような手法は中国の宣伝画やポスターなどにも見られるが³³、漫画の最たる特徴の一つと言えよう。文革期、地主階級、資本家や学術的権威などの批判対象は「牛鬼蛇神（＝妖怪変化）」と呼ばれたが、それを直接的に具現化した作品は読み手にもわかりやすい。ここで選ばれた動物（植物）は確認できただけでも「ネズミ」、「毒キノコ」、「蛾」、「サソリ」、「カマキリ」、「猿」、「ガマガエル」、「クモ」、「蠅」、などがあり、胴体に劉少奇の顔を添えることで、例外なく不気味かつ滑稽にも思える雰囲気漂わせる【図4】。



【図4】

左上「ネズミ」：上藝司上海人民美術出版社奪権兵団

『過街老鼠人人喊打』発行年不詳、表紙

中上「毒キノコ」：上海工人革命造反総司令部

『徹底打倒劉鄧画冊』発行年不詳、裏表紙

右上「蛾」：『打劉鄧』砸爛《工業七十条》漫画集、

新美校赤錘画刊宣、1967年7月、頁数未記載

左下「さそり」：紅三司ほか「紅聯」「革聯」

『打倒文芸黒線総後台劉少奇』1967年5月、頁数未記載

中下「カマキリ」：上海財經学院臨営会工業經濟系革命委員会批判

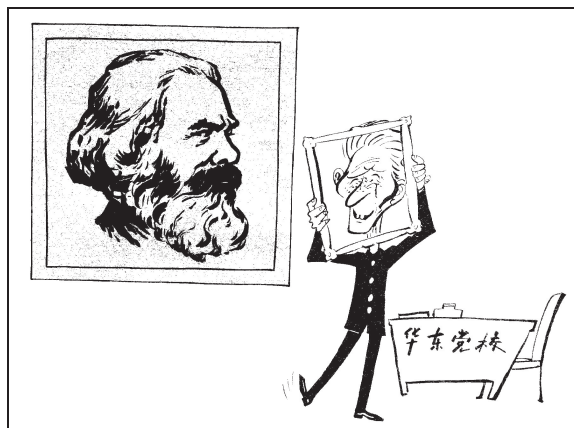
《工業七十条》組編『砸爛《工業七十条》』1967年7月、54コマ目

右下「猿」：華東化工院紅旗總部紅画兵『高舉毛沢東思想偉大紅旗

徹底砸爛劉少奇所執行的修正主義教育路線 漫画專輯（1）』発行年不詳、頁数未記載

劉少奇が文革期の漫画の中で笑みを浮かべる、或いは誇らしげな表情を見せる描写は「悦に入る」彼の愚かさや間抜けさを諷刺する場合が多い。

【図 5】は社会主義の父・マルクスの肖像画の横で、かの大偉人に自分の姿を重ね、劉少奇が同じような肖像画をイメージして、実際に額縁にうまく収まる自分を妄想しながら両手であれこれ調整している。そこでの彼の浮つく姿をこぼれる笑みと足元の小躍りが表現している。この作品には以下のキャプションが記されている。



【図 5】「化けの皮がはがされる」
『劉少奇醜史』上海紅衛兵電影製片廠紅色造反公社作、発行年不詳、頁数未記載

1941 年、劉少奇は華東党校で講義をしたとき、厚かましくも「外国にマルクス（中国語表記：馬克思）が現れたのだから、中国にも『劉克思（劉マルクス）』が現れるだろう」と話した。野心家の様相がむき出しになった。³⁴

劉少奇の過去の言動をもとに作画された漫画で、劉の妄想・愚行をキャプションで痛烈に非難すると同時に、画中のマルクスがしかめっ面で劉ににらみを利かせているのは読む者の「嫌忌の念」を代表しているかのようである。

悪の親玉・劉少奇はこれまでの批判されるべき悪事・愚行をそのまま作画の題材にされ、ビジュアルからの「鼻や歯、髪型」などの悪玉コードを十分に活かし、「よこしまさ、醜さ、愚かさ」を引き出す工夫が凝らされていた。

続いて、劉少奇が画面の主角として諷刺される漫画とは異なる「善玉中心漫画」における劉少奇を見ていく。

人民が主役の漫画（善玉中心漫画）

中国の政治諷刺漫画や宣伝画における代表的な表現の一つがこの「千夫指」といえる。「千夫指」とは成語「千夫所指」と同義で、『漢書』『王嘉伝』の「千人所指，無病而死。」（千人に後ろ指を差されれば、病気でなくても死んでしまう）が典拠であり、現代語でも「衆人の指弾・叱責を受ける」の意で用いられる。賀氏（2013：49）が「（文革期のどんな刊行物でも）容易に見つけられる」と評するように、劉少奇が人民に糾弾される姿は数多くの漫画に描かれるにとどまらず、そ

の破壊力とインパクトゆえ、コマ漫画における最終コマ（大オチ）や刊行物の表紙を飾るメインを張る主要な描写となっていた。確かに、この成語を体現した構図は「善玉＝紅衛兵、労働者、農民、兵士」と「悪玉＝劉少奇ほか反動派」を対照的に描くのに適しており、プロ・アマを問わず、作画しやすいもので³⁵、当時における「宣伝普及の必要性」と「急拵えの創作者育成」というそれぞれの事情にマッチするものであった。

【図 6】は紅衛兵が力強く太い線で大きく描かれている。彼らの表情を見ると、目を見開き、口は一文字に強く結び、眉をつり上げ「怒り」を前面に押し出している。集団の前方にいる者は劉少奇を直接にらみつけ、その後ろに立つ者も視線を敵に向ける。ただし最後方では劉少奇を直接眼光で威圧することはできない



【図 6】「劉少奇の新たな反撃を断固撃退する」
『紅画兵増刊』1967 年 7 月
(賀旻旻『図像政治』p. 49)

が、攻撃・批判を加勢せんとししっかり前を向き、毅然とした態度でプレッシャーを与え続ける。また、彼らの一部は『毛沢東選集』や『毛主席語録』を掲げており、背景でも毛沢東が展開した社会主義建設政策「総路線・大躍進・人民公社」の象徴「三面紅旗」がたなびいている。これらは彼らの後ろ盾である毛沢東の大きな存在感を表す。他方、劉少奇は当時批判を受けていた『共産党員の修養を論ず』(1939年初版)³⁶などの自著を掲げて対抗するも、居並ぶ紅衛兵の怒れる握り拳や、まさに突き刺さらんばかりの「指弾」を前に、ただ後ずさりするばかりである。また紅衛兵の隊列における「指弾する先頭・中衛・後方支援」という段階的な人物描写からも諷刺漫画における「三突出」³⁷の実践運用が窺え、画面内に京劇の「亮相（見得を切る）」の効果を生もうとする創作者の意図が垣間見える。

ペンによる攻撃が描かれるものを賀氏は特に「口誅筆伐^{こうちゅうひつぱつ}」と分類する。この「口誅筆伐」はもともと「言葉や文章で相手を攻撃・非難する」という意味であるが、そのイメージをそのまま作画したのが「武器としてのペン」である。

【図 7】は真っ赤に彩色された紅衛兵 3 名が一致団結して、巨大なペンの鋭い尖端を劉少奇の背中めがけて一気に突き刺し、仕留めている。スピード感や迫力を増す効果線は攻撃対象者を基点に上方、そして右横方向へと伸び広がり、紅衛兵側の激しい攻撃の勢いを表すほか、劉少奇側のダメージ描写とも重なり、それは「激しい鮮血」や彼の「断末魔の叫び」の視覚化を包摂する。



【図7】「劉鄧は党中央から出ていけ！」

『打倒劉鄧漫画專輯』第1輯、赤錘画刊/上海市美術学校他、1967年4月、p.17

文革期の諷刺漫画には小難しい隠喩は不要で、「千夫指」や「口誅筆伐」のような構図こそが善悪もクリアで、読者が理解しやすく、宣伝教化の目的を果たす上で重用されるのも必然的であった。

賀氏論文は、まとめやすい「千夫指」や「口誅筆伐」などの慣用表現や四字熟語で分類するが、それ以外にも、さらに攻撃性を高めた「人物単独での巨大化」や「巨大な握りこぶし」なども劉少奇を含む漫画には確認できる。それらは「怒れる人民の集合体」としての「強い団結」も象徴しうる表現になっている【図8】。その他、攻撃する武器（兵士は銃剣、工場労働者は工具、農民は農具）の描き分けも存在している。【図9】は農民が土を掘る平鍬で劉少奇と鄧小平を制圧している。このように「糾弾する側」の分類にもまだまだ検討の余地はある。



【図8】

『打倒劉少奇漫画集（一）』上海紅衛兵電影製片廠他、発行年不詳、表紙



【図9】「劉少奇・鄧小平を打倒せよ！」

『大批判漫画選刊』南通県文化館、発行年不詳、p.42

善玉中心漫画における劉少奇

ここから改めて善玉の手により窮地に追い込まれる劉少奇じたいの漫画表現を検討していきたい。

まず劉少奇の主なマークとなる「顔」であるが、衆人に打倒される場面では顔も身体・服装と併せて「簡素化・簡略化」されることが目立つ。劉少奇が諷刺漫画の主演として大きく描かれる悪玉中心タイプの作品では、彼の特徴をしっかりとデフォルメした顔も確認できるが、こと善玉中心の中では顔、身体が全体的に小さく描かれたり、省略されるため、一見すると劉少奇とは判別しづらいものもあり、極言すれば「批判対象＝劉少奇」という状況下だからこそ、人物認定できる場合すらあるように思える。



【図10】(計4点)はいずれも劉少奇単体で見ると、彼と判断することは難しいかもしれない。しかし、そこでは「大きな鼻」と「髪型」がまずは端的な劉少奇イメージとして利用されていることがわかる。

また、「打倒される場面」である【図8・9】は「鼻・歯・あばた・髪型」がしっかり反映されているが、身体の簡略化・縮小化も伴っている。これは「打倒される場面」が敵側をデフォルメして、隅に追い込むだけでなく、あえて「不完全さ」を取り入れることで、一方の肯定的人物の力強さなどをより強調できる手法に繋がると考える。

【図10】

上：「毛主席を悪辣に攻撃し、狂ったように毛沢東思想を誹謗する」『紅画筆』第4期、1967年5月1日、p.1より

中左：前掲『砸爛《工業七十条》』、2コマ目より

中右：前掲『紅画筆』第4期、表紙より

下：前掲『打劉鄧!』、扉挿絵より

肯定的人物との差異を表現する上で、カラー2色刷の場合、その人物或いは革命関連の物品や象徴的事物（『毛沢東選集』、『毛主席語録』、旗、太陽など）を赤色で彩色し、革命の象徴を表すことが多い。その際、劉少奇はモノクロ（白抜き）ですでに力の無い存在として表現される。前掲図版を例に挙げると、【図7】は紅衛兵、【図8】は人民の拳骨、【図10下】ではペン、工具、農具、銃がそれぞれ赤く塗られており、劉少奇はいずれもモノクロである。このような視覚的対比は効果的であり、読み手にとっても非常に印象に残るものだろう。

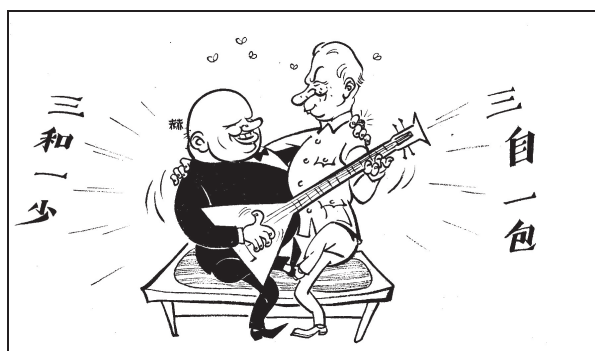
次に、上述「デフォルメの簡略化」以外に「劉少奇が主役然とした悪玉中心漫画」と「人民が力強く描かれる善玉中心漫画」における差異で気づいた点を列挙する。

○漫画タイトル

「悪玉中心」では劉少奇に対する実際の批判内容やレッテルなどを踏まえた図版に適った名付けが行われ、読み手がイメージしやすい慣用句や成語・四字熟語を取り入れ、図版と語感の相乗効果を狙ったものも多く、より諷刺漫画らしい作品となっている。それに対して、「善玉中心漫画」は「劉少奇を打倒せよ」といったストレートなフレーズ、『毛沢東選集』や『毛主席語録』からの引用や劉少奇批判のスローガンをそのままタイトルとするものも多く、読み手を鼓舞するような宣伝ポスターにも近いと言える³⁸。

○「批判事由」の扱い方

劉少奇が進めた代表的な悪政や悪行を文字情報として、画面に直接記したり、画中に書籍や紙などの形で残し、劉がそれに拘泥する厭わしい姿を批判するという作品は当時の漫画に頻出する。漫画内に記される代表例には「共産党員の修養を論ず」（註36参照）、「工業七十条³⁹」、「三自一包」（註24参照）などで、特に資本主義を推し進めることに結び付く政策を「文字」に記すことが多かった。【図11】は「劉少奇が主役の悪玉中心」作品群で、それぞれ【図11・上】は資産階級の世界観を宣揚すると批判された『共産党員の修養を論ず』が著者・劉少奇の手元にあるほか、大蛇の姿として描かれ、共産党員が資本主義（奥の看板に記載）に呑み込まれると注意喚起する。【図11・中】は「中国のフルシチョフ」（註28参照）と称される劉少奇がフルシチョフ本人と抱擁しあって合奏し、批判事由の「三自一包」や「三和一少⁴⁰」を奏で続けるも、作者はそこに蠅を描き添えてしまい、「腐ったハーモニー」と一蹴する。【図11・下】は5コマ漫画のうちの3コマ目である。劉少奇が大躍進などの民衆運動を「鎮火」させ、その残り火にさえ、シートと化した「工業七十条」（註39参照）を敷き、上から消そうとし、余裕の



表情のまま、寝タバコで悪態をつく。同一コマ内のセリフには「(運動の) 火が消えていけば、私は気持ちよく資本主義復活の素敵な夢をみせてもらえる⁴¹⁾」と書いてある。このように「悪玉中心漫画」の場合、劉少奇がそれらをうまく利用して悪事を働こうとする人物で描かれる。しかし、「善玉中心漫画」では書籍等の物品に記された場合、劉少奇の手からこぼれ落ちることで、その政策や方針の失敗を暗示する。

【図 6】では『共産黨員の修養を論ず』らしき書籍を 1 冊落とし、【図 8】と【図 10・中右】でも劉少奇は攻撃に耐えられず、自著を手放してしまう。

【図 11】

上：前掲『紅画筆』第 4 期、p. 7

中：「1 曲を一緒に弾く」上海芸術院校文芸界革命造反司令部『砸爛劉少奇狗頭漫画集』、発行年不詳、頁数未記載

下：前掲『打劉鄧 1』、頁数未記載

「工業七十条」の描写に関しては【図 11・下】のように、紙の端が丸まった巻紙の形状で表現することがある。これは中国語の「条」に「工業七十条」における「条例」の意味と、単なる「紙切れ」の意味を重ねている。

【図 12】では複数枚の紙が無残に散らばる様子が、また【図 13・右】では紙に「工業七十条」の記載はないが、同書内にある【図 13・左】の紙の形状と似ている点から、同一のものと考え、「工業七十条」が劉から手放されたと理解できる。



【図 12】

前掲『砸爛《工業七十条》』表紙より



【図 13】

前掲『打劉鄧!』表紙（左）及び最終頁（右）より



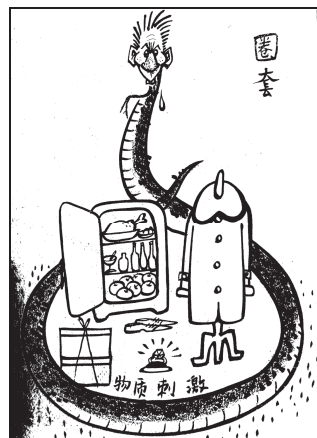
○ヨダレと唾^{つば}

ヨダレと唾は同じく唾液だが、「悪玉中心」と「善玉中心」ではいくらか描き分けが存在しているようである。劉少奇は資本主義の道を歩む「走資派」の代表人物と批判されるため、漫画の中でも資本家と組んで労働者から搾取し、自身はうまい汁を吸うというイメージで描かれる作品が多い。そこで「悪玉中心」では彼が資本家と懇ろになり、その先にある贅沢や個人蓄財を想えば、自然とその顔はにやけてしまい、垂涎を禁じ得ない……と、創作者は劉少奇にヨダレを垂らさせる。一方の「善玉中心」では劉少奇が追い詰められてなお、紅衛兵らに最後の抵抗で口角泡飛ばす姿が見苦しく描かれる。

【図 14】は臭虫^{シラミ}として描かれる資本家がソロバンをはじきながら、すでに口元や周囲にまき散らすほど人民の血を吸い上げた事後である。シルクハットに、サングラスをかけてタバコをくゆらす、如何にもわかりやすい悪玉と劉少奇は「造反有理⁴²」ならぬ、現方針と見なされた「剥削有理（搾取に道理あり）」と書かれた法案・条例を手に固く握手する。【図 15】は人々の物欲を刺激し、豊富な食材や高級品をエサに資本主義の「トラップ」に陥れようと、蛇と化した劉少奇が鎌首をもたげ、獲物を待ち構えつつ、ヨダレを垂らし、舌なめずりをする。



【図 14】



【図 15】

ともに前掲『徹底打倒劉鄧画冊』より、頁数未記載

【図 16】は立ちはだかる巨大な労働者に向け、劉少奇が手に持つ自著『共産党員の修養を論ず』の一節を用いて「人のことを考えて、気遣いなさい⁴³」と忠告している場面である。唾 2 滴は上方へと吐かれ、その下部に飛散の力やスピードを可視化する 4 本の短い効果線を添え、唾に勢いを加えている。先に例示した「ヨダレ」とは異なる「強い抵抗」のニュアンスを表現している。

【図 17】は『毛沢東選集』を読み込む巨大化した労働者に対して、コマの左側に見切れるまで追い込まれた劉少奇が唾を飛ばして激しく抗う描写である。しかし、口角泡飛ばす激しい訴えにあっても紅衛兵や労働者には相手にされていない。

結びにかえて

本稿では賀旻旻氏ほか文革期漫画の先行研究を土台に、当時の漫画における「批判対象」の描写に絞り、劉少奇を題材にその特徴を考察した。まず漫画における紅衛兵や労働者ら「肯定的人物」の勇姿がどう描かれ、その敵である劉少奇は対照的にどう諷刺・攻撃されたのかに触れ、その後、新たに「善玉中心」と「悪玉中心」の漫画表現を主軸に細かく劉少奇描写を見比べることで、いくつか悪玉描写の中にも表現の差異があることを具体的に示せた。

現時点では以下のような傾向を確認した。

	自身が主役（悪玉中心） のときの劉少奇	人民が主役（善玉中心） のときの劉少奇
顔・身体	悪玉コードに忠実 丁寧な印象付け	簡略化・縮小化
タイトル	読者を意識した自由度の高さ	批判事由列挙、スローガンの
批判事由 （文字）	しっかり意識して提示 実行の意志明確	追い込まれてのち、手放す 実現不可・実行放棄
唾液描写	悪事を前にほくそ笑み垂涎	激しい抵抗の口角泡飛ばし



【図 16】
工農兵美術工作者聯合造反兵
団他編『打倒劉少奇漫画専刊』、
発行年不詳、頁数未記載



【図 17】
前掲『砸爛《工業七十条》』9 コ
マ目より

顔や表情に悪玉コードを丁寧に反映する「悪玉中心漫画」は全体的に作品の中では「諷刺・嘲笑」に主眼が置かれており、見た目での不気味さや陰険さ、不甲斐無さなど多様な性格・特質の表出に工夫を凝らし、行動描写においても悪事に対する拘泥や愚かさを十分に引き出す表現が重視されていた。他方、簡略化・縮小化された劉少奇は「衆人或いは巨大な人民の指弾」の中では小さく弱い存在であることが重要であり、実際にタイトルのスローガン化や悪玉コードの省略（加えて、赤〔人民〕とモノクロ〔劉少奇〕の対比など）が駆使され、「肯定的人物」を賛美するための引き立て役に徹する「打倒対象」としてふさわしい描写がなされた。

漫画の特徴である「諷刺・攻撃」、「賛美・称賛」のそれぞれに悪玉描写の工夫が凝らされ、本稿で用途に応じた「悪玉」の姿、描き分けが一定数存在することが明らかにできただろう。

註

- ¹ 毛沢東の指導下、文化大革命を推し進める中心となった青年や学生 of 政治運動組織。
- ² 陶冶『中国の風刺漫画』（白帝社、2007 年）pp.147-154 や甘陰峰『中国漫画史』（山東画報出版社、2008 年）p.343 ほか。甘陰峰『中国漫画史』p.348 には「紅衛兵漫画」ともある。
- ³ 徐新民主編『漫画的年輪』中国国際広播出版社、2001 年、p.82
- ⁴ 前掲『中国の風刺漫画』p.150
- ⁵ 同上『中国の風刺漫画』p.150
- ⁶ 魏華『新中国連環画芸術簡史』中国伝媒出版社、2008 年。1966 年「五・一六通知」による文革発動から 1976 年「四人組」失脚・逮捕までを指す。（武田雅哉『中国のマンガ〈連環画〉の世界』平凡社、2017 年、p.185）
- ⁷ 黄遠林「中国当代漫画の分期和特徴（上）」（『美術史論』1990 年第 1 期）および華君武主編『中国現代美術全集 漫画』（天津人民美術出版社、1998 年）の前言
- ⁸ 黄遠林『百年漫画（上・下巻）』現代出版社、2000 年
- ⁹ 漫画史関連書籍では陶冶『中国の風刺漫画』（前掲）や甘陰峰『中国漫画史』（前掲）、陳維東『中国漫画史』（現代出版社、2015 年）などで文革期を項立てして取り扱っている。また、論文では散木「漫説漫画以及“文革”中的政治漫画」（『社会科学論壇』2004 年 8 期）、散木「“反右”、“文革”漫画和著名的《百醜図》」（『博覧群書』2007 年 7 期）、李珉「論“文革”漫画」（『芸術探索』2008 年 1 期）、蔣之龍「紅衛兵美術的狂熱」（『科教文匯（下旬刊）』2008 年 9 期）などが実作を例示しながら取り扱う。また劉進才「孔子形象在文革時期的重塑與傳播——以連環画、漫画為中心的考察」（『蘭州學刊』2015 年 1 期）は孔子描写に絞って取り上げる。
- ¹⁰ 本論文は第一章で先行研究や当時のメディア状況、本文の研究方法などについて、第二章は文革以前に描かれた劉少奇を賛美する油絵を取り上げ、文革期の諷刺漫画との違いを明示し、劉少奇の政治的地位の変化を明らかにする。第三章では劉少奇が漫画でどのように描かれてきたか、文革期の代表的漫画「群醜図」における「悪の頭」のイメージをはじめ、当時の批判に即した作画をまとめて列挙する。第四章では劉少奇・王光美夫妻の報道内容を諷刺した複数コマ（連環形式）の漫画『劉修外史』と『王光美醜史』を特に取り上げる。最後にそれまでの漫画分析を踏まえ、政情と切り離せぬ文革期の美術を総括する。
- ¹¹ 劉少奇（1898-1969）湖南省出身。1921 年、中国共産党入党。1949 年、中華人民共和國建

- 国後、中央人民政府副主席。1959 年、国家主席就任。1965 年、国防委員会主席。経済情勢転換を目指す政策で、毛沢東と対立。1966 年、文化大革命で批判を受け、1968 年、党から永久追放。1969 年、病死。1980 年、名誉回復。
- ¹² 賀旻旻『図像政治——1966-1969 年美術作品中的劉少奇形象』（中国芸術研究院碩士論文、2013 年）p.49
- ¹³ 劉少奇（悪玉）の漫画表現に関しては、紅衛兵が「ペンの力（刀剣的な役割含め）で糾弾する」漫画を説明する際に少し触れる程度にとどまる。（前掲『図像政治』p.52）
- ¹⁴ 加々美光行編『現代中国の挫折』アジア経済研究所、1985 年、p.237
- ¹⁵ 1966 年から 1976 年までの『全国総書目』（中華書局版）及び『美術論文著資料索引』（天津人民美術出版社版）を確認すると 3 冊のみであった。また、「読秀学術搜索」（<http://www.duxiu.com/>）にて 1966 年から劉少奇没年 1969 年までの造反漫画が隆盛した時期でさえ、6 冊（うち 1 冊は漫画技法の入門書）しか確認できなかった。
- ¹⁶ 1967 年当時、北京・天津だけで紅衛兵美術新聞が 31 点存在した。（王明賢・嚴善鐸『新中国美術図史 1966-1976』中国青年出版社、2000 年、pp.22-23）
- ¹⁷ 以下、いずれも『人民日報』より：漫画専門の掲示場が当時地方で普及していた（「多種類の宣伝形式を運用して、中国のフルシチョフを摘発批判すれば、（山東）歴城農村の革命大批判運動が広範に深く繰り広げられる」1967 年 7 月 26 日第 3 面）、40 日間で 110 万人の入場者数（「100 万人がアジア反帝国主義漫画展覧会を參觀した」1967 年 10 月 5 日第 4 面）、列車内（北京発内モンゴル行）に漫画がたくさん掛けられる（「資本主義を生き返らせる反動路線は絶対に歩まない」1968 年 9 月 20 日第 6 面）また、1968 年 12 月 31 日にも鄭州発広州行の列車で劉少奇批判の漫画展が開かれている。（「勢いよく走る列車の上で」1969 年 1 月 7 日）
- ¹⁸ 土屋昌明「胡傑・艾曉明監督『紅色美術』のインタビュー資料およびその分析」（『専修大学社会科学研究所月報』632、2016 年）p.6 の翻訳部分より抜粋。
- ¹⁹ 前掲「胡傑・艾曉明監督『紅色美術』のインタビュー資料およびその分析」p.4 の翻訳部分より抜粋。
- ²⁰ 前掲「胡傑・艾曉明監督『紅色美術』のインタビュー資料およびその分析」pp.6-7 の翻訳部分より抜粋。
- ²¹ 杜禹威「今日の中国教育社会における文化大革命の影響：教育意識に関する世代別インタビュー調査をもとに」『社会学論考』第 33 号、2012 年、pp.32-33。学校は 1 年ないし 5 年も授業を停止。大学の学生募集は 5 年間停止、大学院は 12 年間停止。その他、大学 45 校が廃止されている。
- ²² 1958 年から実施された高度経済成長政策。「15 年でイギリスに追いつく」という重工業優先の国家目標を掲げたが、現実的でない強引な政策は最後には経済均衡の失調や農村の荒廃をもたらし、毛沢東が国家主席を辞任する事態に至る。
- ²³ 鄧小平（1904-1997）四川省出身。1924 年、中国共産党入党。フランス・ロシア留学を経て 1926 年、帰国後は政治活動に従事。1945 年、党中央委員選出。以降も 1952 年、中央人民政府政務院副総理、中央政治局常務委員・中央委員会総書記など中央の日常業務を統括する職に就く。1966 年、文化大革命初期に劉少奇支持を堅持し失脚。「資本主義の道を歩む党内 2 番目の実権派」と批判を受ける。1973 年、毛沢東の指示により、党の組織活動と國務院副総理の職務を回復。1983 年に国家中央軍事委員会主席に就任し最高実力者となる。
- ²⁴ 「“包”産（生産の請負）」・「“包”工（労働の請負）」・「“包”成本（生産費の請負）」と「“一”奨（生産超過達成分の奨励）」で、生産の超過分は買い取るなどし、積極的な経営努力を促した。
- ²⁵ 「“自”留地を認め、“自”由市場・“自”営業を興し（三自）」を増やし、農家ごとの生産請負（一包）を奨励し、農民の生産意欲を高めようとした。
- ²⁶ 『工農兵増刊履歴表彙編』（工農兵雑誌編輯委員会、1967 年 9 月）の巻頭言。原文は以下の通り。「混進黨裏、政府裏、軍隊裏和各種文化界的資產階級代表人物，是一批反革命的

- 修正主義分子，一旦時機成熟，他們就会要奪取政權，由無產階級專政變為資產階級專政」
²⁷ 掲載メンバーは劉少奇、鄧小平、陶鑄、彭德懷、賀龍、彭真、陸定一、羅瑞卿、楊尚昆、王光美。
- ²⁸ フルシチョフ（1894-1971）ウクライナ人。1953 年から 1964 年までソビエト共産党中央委員会第一書記。1956 年、スターリンの個人崇拜反対を提議し、社会主義と資本主義の平和的競争を主張。工農行業改革も執った。文革期に劉少奇は資本主義に傾倒する代表的な人物であると批判され、「中国のフルシチョフ」と揶揄された。
- ²⁹ 李珉「論“文革漫画”」『芸術探索』2008 年第 1 期、p.19
- ³⁰ 前掲『図像政治』p.45、p.88
- ³¹ 奥田寛「現代中国語小説に現れる人物描写」『中国人の非言語コミュニケーション』東方書店、1997 年、pp.23-53
- ³² 陳東林ほか主編、加々美光行監修『中国文化大革命事典』中国書店、1996 年、p.143
- ³³ 米英をはじめとする帝国主義国家を鬻體、山犬や狼、イタチ、狐、ビエロなどのイメージに歪曲し、陰險さや凶暴残酷、狡猾さ、貪欲で卑しい様子を表現する。鄒燦（和田英男訳）「政治ポスターと現代中国政治の社会化過程——「大躍進」時期を例として——」『大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー』No.2010-16、p.9
- ³⁴ 原文は以下の通り。「一九四一年，劉在華東党校授課時，厚顏無恥說：“外国出了個馬克思，中国為什麼不能出一個劉克思？”野心家面目，暴露無遺」
- ³⁵ 「它們簡單易行，容易複製，基本無須經過專業的美術訓練，略微擁有造型基礎的人就能參與創作」前掲『図像政治』p.37
- ³⁶ 劉少奇の主著『共産黨員の修養を論ず』（1939 年初版）は共産黨員の規律や指導が記してあり、共産黨員の間で広く読まれたが、文革期に戚本禹「愛国主義か、売国主義か」（『人民日報』1967 年 4 月 1 日）で名指しではないが暗に「革命は不要、階級闘争は不要などと毛沢東思想に反対し、腐った資産階級の世界観を宣揚するもの」などと批判。また、『紅旗』誌と『人民日報』紙でも 1967 年 5 月 8 日に「『共産黨員の修養を論ず』の要点はプロレタリア独裁への裏切り」とする記事もある。書籍の原題は「論共産黨員の修養」だが、造反漫画では「論修養」と略記されることが多い。
- ³⁷ 「三突出」は于会泳「讓文芸舞台永遠成為宣傳毛沢東思想的陣地」（『文匯報』1968 年 5 月 23 日）で「あらゆる人物の中で正面人物（肯定的人物）を突出させ、正面人物の中で主要な英雄人物を突出させ、主要な英雄人物の中では最も主要な、すなわち中心人物を突出させる」という人物描写を提起したもので、以降、「プロレタリア文学・芸術創作の根本原則」とされた。（前掲『中国文化大革命事典』pp.376-377）
- ³⁸ 一例として、上海工人革命造反総司令部『徹底打倒劉鄧画冊』（発行年不詳）では表紙・裏表紙含め計 31 作品中、「善玉中心漫画」7 作、「悪玉中心漫画」24 作であった。「善玉中心漫画」7 作中の「慣用句・四字熟語等のタイトル」は 1 作で、「ストレートフレーズ・スローガン等のタイトル」は 5 作、「タイトルなし（表紙）」が 1 作であった。他方「悪玉中心漫画」は「慣用句・四字熟語等タイトル」が 10 数作カウントできる。
- ³⁹ 出来高制賃金など含む政策 1961 年「工業管理条約（通称：工業七十条）」は資本主義の道を歩む悪政の代名詞とされる。
- ⁴⁰ 「三つの和と一つの少」を意味し、「帝国主義・修正主義・各国反動派」に「和」を求め、対外援助を「少」なくすることを表す。
- ⁴¹ 原文は以下の通り。「火給我滅下去了 讓我舒々服々地做，做……資本主義復辟的美夢」
- ⁴² 文革期に紅衛兵などが劉少奇ら実権派支配の党や政府に対する闘争で使用したスローガン。「謀反するには道理がある」という意味。
- ⁴³ 図版記載の劉少奇のセリフ原文は以下の通り。「劉少奇說：“将心比心”，設身処地為人家着想，体貼人家」